東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年１０月14日

預言者ムハンマドの布教のメソッド

親愛なるムスリの皆様

崇高なるアッラーは人間を創造され、彼らに、彼らの中から選ばれた使者を通し、現世と来世で幸福になるための道をも示されました。最大の布教者はアッラーの使者たちです。だから教えを広める活動は、最初の人間であり最初の預言者でもあるアーデムによって始まり、他の預言者たちによって続けられ、預言者ムハンマドに至ったのです。預言者たちは人々にアッラーのご命令に適う方向で警告を与え、彼らに正しい道を示し、模範となるような生涯を実際に送り、それを示すという任務を与えられていました。クルアーンでは預言者ムハンマドはアッラーの導き者とされ、その任務も「警告を与えなさい」「導きなさい」「注意しなさい」「教えを伝えなさい」といった形で表現されています。アッラーはクルアーンで次のように仰せられています。「（大衣に）包る者よ、立ち上って警告しなさい。あなたの主を讃えなさい。またあなたの衣を清潔に保ちなさい。」（包る者章１－４）

預言者ムハンマドも、あらゆる困難のもとでこの布教の任務を、最良の模範を示しつつ実行されました。預言者ムハンマドはこの布教を、優美で細やかな言葉を用いて行なわれました。クルアーンはムーサーとハールーンにファラオに対してすらも優しい言葉を用いることを命じていました。また布教は近親者から始めていました。命令や禁止事項を誠実にまず自ら実行されました。預言者ムハンマドの罪が許されるとされたのになぜ足が腫れるまで礼拝しているのかと尋ねられると、「私は感謝するしもべであるべきではないか」と答えられました。失望したり絶望したりすることなく、大きな信仰、忍耐、決意、ゆるぎない心を持って任務を果たされました。預言者ムハンマドは布教を行なわれる際にはいつでも赦し、寛容さ、敬意、愛情、優しい言葉、いたわり、そして慈悲を持たれ、人々に対し粗野であったりすることはなく、悪意や憎悪、怒りを遠ざけておられました。ハムザの亡骸をばらばらにしたワフシに対しても赦しという徳を示されたのでした。人々の過ちを面と向かって告げることはせず、批判は名前を明らかにせずに行なわれました。教えを無理やり受け入れさせることは決してありませんでした。選択肢があれば、教えに関する事柄において容易さ、容易であるものを選ばれていました。そして私たちにも次のように奨励されました。「容易にしてください。困難なものとしないでください。吉報を伝えてください。憎悪を抱かせないで下さい」任務を遂行する際には、いつでも信頼を与え、公正であられました。決してその正しさから遠ざかることはありませんでした。教えを利益を得るために用いることもありませんでした。個人的な利益を得ることなど考えてはおられなかったのです。今日教えを伝える活動を行なう上で、最も効果のある形でそれを実行するためには預言者ムハンマドの布教のメソッドに注目する必要があるのです。そして私たちの生涯においても取り入れられるべきメソッドもまた、これなのです。